

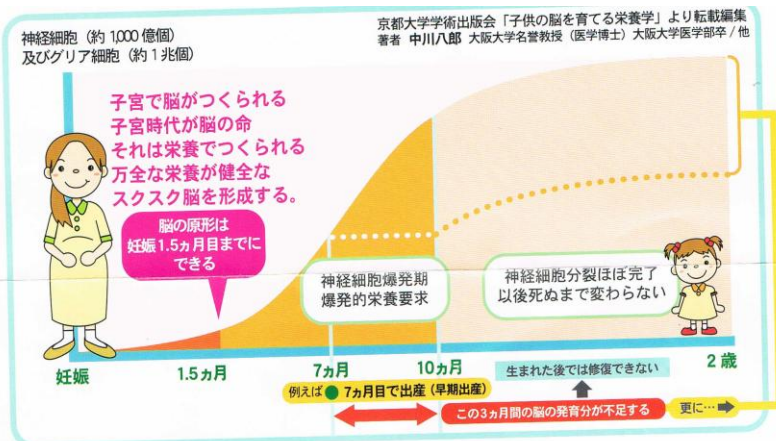
本康歯科ニュース

「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院をめざして！！



今、**出生時の体重が 2,500g 未満の早期低体重児（以下低体重児）が増えています**。しかし、この低体重がその子にとって大問題であるということが、殆ど認識されていません。それは、「小さく産んで大きく育てよう」という、最新の脳科学から見ると、誤った常識が一般化しているからです。**低体重児は、生まれる前に人生のリスクを背負い、生まれてきます**。低体重児は胎児期に栄養不足によって成長が抑制された子供であり、これは脳に重大な影響を与えます。例えば、出生体重が小さい子ほど、脳の発達障害や神経学的異常（脳性まひ、精神遅滞、視力・聴力障害など）が高くなります。就学時には学習障害や行動障害のリスクが高く、問題が生じる頻度が高くなります。更に将来的には、生活習慣病のリスクが高くなります。どうしてそのようなことが起きるといふと、胎児は母体から受け取る栄養によって、体の組織やシステムの構造、機能が決定づけられます。低栄養でも生きていけるように胎内で構成された代謝系は、生まれた後も変化することはありません。その結果、脳の発育にダメージを与えるということになります。更に出生後は、栄養状態がよくなるため肥満細胞が大きくなり、肥満・糖尿病・高脂血症・高血圧・虚血性心疾患など生活習慣病を起しやすいつ体制になります。

早期低体重児出産は、口の中の一般的な歯周病菌が原因のひとつであるということが、科学的に明らかになってきたからです。ダイエットしている女性の栄養不足も原因ですが、歯周病菌も原因のひとつです。まずは、これから生まれてくる子供に出来ることを私共と一緒に考えていきませんか。



この文章は大変複雑な内容で心を害する人もおられる

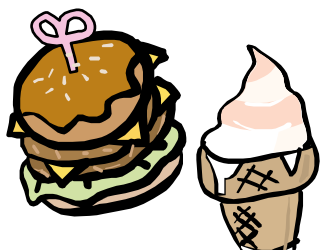
と思いますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。

お役立ち歯科情報

「ポテトチップス」と「アイスクリーム」、
どっちが“むし歯”になりやすい？

一般的に、むし歯というと“甘い食べ物が原因”になるとされています。しかし、食べ物には様々な「形」「固さ」「味」があるので、ただ単に「甘いからむし歯になる」という判断はできないのです。まず、その食べ物が下の「3つの項目」にどれくらい当てはまっているか考えてみましょう。

甘いもの	砂糖の量が多いので、お口の中で歯垢（プラーク）や酸を作る能力が高い。
食べるのに時間がかかるもの	糖分が長く口の中に存在してしまう。
歯にくっ付きやすいもの	食べ終わった後も糖分が長く口の中に残ってしまう。



その食べ物が歯にどれだけ“付着力”があるのか、お口の中での停滞時間なども総合的に考えてみないといけません。すると、最もむし歯になる確率が高くなるのは“**砂糖が多くて口に残りやすい食べ物**”になります。代表的なものとしては「キャラメル」や「ケーキ」などの洋菓子類といったところでしょうか。また、砂糖が多くても口に残りにくい「アイスクリーム」や「ゼリー」などはリスクが中程度。砂糖は少ないけれど口の中に残りやすい「ポテトチップス」などのスナック菓子も中程度のリスクということになります。

上のような“**食べ物の特性**”を知って気をつけて食べるようにすれば、それだけでもずいぶん「むし歯リスク」は変わってきます。むし歯予防は「歯みがき」だけではなかったんですね。